

室根神社特別大祭

遠い昔、この地(室根)で始まった神の勧請を再現する祭り。人々は1300年の間、そのいしえの祭りの形を守り続けた。それはやがて、他に類を見ない「唯一無二」の祭りへと進化していった。

「ワギョーレー」。

静かな山里に「御先打」の掛け声が響き渡る。

奈良時代からその姿を今に伝える国の重要無形民俗文化財「室根神社特別大祭」。今年の祭りは10月25-27の3日間、室根町折壁の特設会場などで行われた。前回の2013年以來2年ぶりとなる秋祭りに、秋の大地は揺れた。

祭りの起源は奈良時代。養老2(西暦718)年に熊野神社(和歌山)から神様を勧請したことにならう。人々は「祭り」という形で神様の到来を再現することにしたと伝えられている。

以来、今日まで1300年もの間、地域の伝統行事として受け継がれてきた。

同大祭の特徴は、祭りを仕切る主催者がいないこと。自ら主体的に集まった参加者が、それぞれに与えられた役割を全うする。祭りの準備も神社側から指示はない。「神役」と呼ばれる人々が、それぞれ受け継いできたことを実行する。

例えば、神前に潮をささげる「御塩献納役」は、海岸から潮水を献上したことを再現する。現在もその子孫といわれる人がこの役を務める。お粥を作つて献納する「粥献司役」は、神輿を運

ぶ途中で粥をささげたことを再現する。これも子孫が代々受け継いできたことだ。神社が建つまでの間、神様を安置する「仮宮」を建てたことになり、ふもとの広場には仮宮が建てられる。これは必ず同地区の人々が受け持つ。神輿の担ぎ手である「陸尺」や、神輿を出迎える17騎の「荒馬先陣」も、長い間世襲で受け継がれてきた。

こうした「神役」は、おおむね同じ家系の人々が世襲で受け継いできた。紀伊の国から移り住んだ人々の子孫も少なくない。神様の到来がうるう年の翌年だったことから、祭りの開催は「旧暦うるう年の翌年」に決まった。

古くから伝わる本来の姿を、そのまま再現する祭りは極めてめずらしい。伝統の祭りは85年、国の重要無形民俗文化財に指定された。

祭りは、荒馬先陣や鬘まつりの馬場巡り、町内行進など多彩な催しが繰り広げられる。クライマックスは最終日。室根山8合目の室根神社で本宮、新宮の両神輿に御魂移しが行われる。午前4時、二つの神輿はマツリバの仮宮を目指して下り、荒々しく先着争いを繰り広げる。早朝に行われる室根神社祭の「マツリバ行事」は好天に恵まれ、神をあがめる男の祭りは最高潮に達した。

1 神輿の安着を見守る陸尺たち / 2 馬上で凛とするお殿様役の男児 / 3 南流神社を参拝するために連なった荒馬先陣 / 4 1983年に氏子たちが作った昇り旗 / 5 午前4時、二つの神輿は陸尺に担がれ静かに山を下る / 6 田植の壇で行われた新穀献納式 / 7 同じ頃、暗闇の中、神輿を出向かえに向かう荒馬先陣 / 8 御袋神社背負騎馬もまた、厨子を背負って出発した / 9 神輿を先導する大先司。勢いよくマツリバに飛び込む / 10 武者人形を飾った山車の襲祭り / 11 マツリバで激しくもみ合う本宮、新宮の陸尺たち / 12 きらびやかな舞姫。仮宮に優雅な舞を奉納する / 13 室根神社総代総代長の小山京一さん。祭り継承に情熱を傾ける / 14 市内外から訪れた多くの観客たち。熱い祭りの余韻に浸った

